

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 近藤礼子

所属： 横浜市立旭北中学校

課題名： G30の推進を通して生徒活動の向上を図る

1. 課題の主旨

横浜市においてゴミを30%減量させる「G30」の取り組みがある。全市をあげてゴミ問題に対して取り組みを行うもので、分別の方法など細かく提案された。学校でも横浜市の「G30」の取り組みを受けゴミ削減に向け生徒の活動として実践していくこととなる。本校でもゴミ問題に限らず広く環境教育を推進していきたい。

そこで、本校を取り巻く自然環境を考えると、学区は静かな住宅街で、周りには四季の森公園、都筑の森公園などがあり、自然に恵まれた地域である。一方、地域の周りには多くの自然が残っているが、四季の森公園にホテルを見に行った経験のある生徒は4分の1程度でと、自然は豊富にあるが生徒の自然体験はあまり多くないというのが現状である。

また、平成14年度の生徒総会より、ペットボトル、紙パックなどによる飲料水の校内持ち込みが許可された。そのため、校内の美化活動やゴミの持ち帰りなどの環境に関する取り組みが行われているものの、生徒の環境に対する意識なかなか高くない傾向がある。

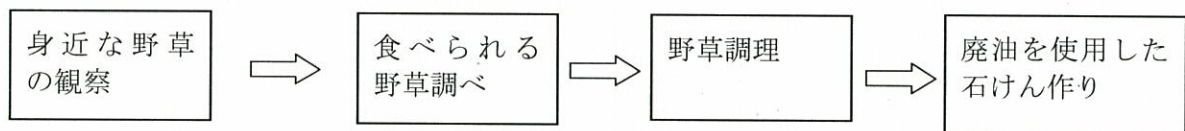
以上のことから、本校では「G30」の取り組みとして、ゴミの分別にいつそう力を注ぐと共に、理科教育において、次の2点に重点を置き情意面からも環境教育に迫っていきたい。

1. 身近な自然を活用し、生徒が自然に触れる機会を多くする。
2. 小動物の飼育を通して生命や身近な環境を大切に育てる。

2. 活動状況

活動1 身近な自然を活用した環境教育

3年理科選択授業では「校内の自然を教材として身近な自然に触れ、環境について考える機会をつくることによって、身近な自然に目を向けることのできる生徒の育成を図りたい」という考えから、校内の野草の観察から始まり、食べられる野草調べ、野草調理、調理の天ぷらで残った廃油を使った石けん作りの流れで授業を行った。





野草探し



野草調理



野草の試食



廃油を使った石けん作り



←野草の天ぷら

完成した石けん→



活動2 小動物飼育管理による情操教育



←マウスの飼育

サケの飼育→



サケの放流↑

活動3 大気汚染と地球温暖化の環境授業の実施 千葉県ヌマサングの現地調査

活動4 「G30」の取り組み

結果

生徒の感想文から、今回の取り組みは、単なる知識が増えることに留まらず、生徒自身が自然に目を向けることにつながったと考える。今後も生徒が実体験を基に、感動をともなって知識を獲得できるように工夫していきたい。また、今後の自分の生活に結び付けて感想を書いている生徒が多く、自然を大切にしようとする心を育てることが「G30」の活動に貢献していると考えます。

3. 今後の課題と発展

今回の授業を通じた体験が自然を大切にしようとする意識を確かなものにし、そして、その意識の高まりによって「G30」に向けた積極的な行動につながる一つのきっかけになることを望んでいる。

4. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など